



会礼の話 2月

いよいよ2月を迎えました。先週の金曜日、2月3日は何の日だったか知っていますか。そう、節分の豆まきの日でした。家で豆まきをした人も多かったのではないのでしょうか。



では、節分とは何でしょう。節分とは字からも分かるように「季節を分ける」という意味です。つまり、季節が変わる日のことを指します。11月の会礼で暦(こよみ)の話をしました。皆さん覚えていますか？夏の始まりである、「立夏」、冬の始まりである「立冬」など、日本では暦の上で春夏秋冬の季節が変わる日が決まっているんだよ、という話でした。その、「季節が変わる日」の「前日」のことを「節分」といいます。

中でも立春は旧暦で新年の始まりであったことから、今から何百年も前から、特に大切にされることになったそうです。そのことから、一般的な節分は「立春の前日」を指すようになったといわれています。新しい年を前にして良いことを呼び込み、悪いことを追い出すために、豆まきをしたり、恵方巻を食べたりするようになったそうです。

さて、校長先生は、その節分の日の2月3日、5年生と一緒に観音山少年自然の家というところに宿泊体験学習に行ってきました。5年生は2月1日から3日までの2泊3日でしたが、校長先生は他のお仕事があったので、二日目は教頭先生に代わっていただきました。5年生に兄弟がいる人は、いろいろとお話を聞いていると思います。観音山少年自然の家は、山の中にあり、ここと比べて200m以上も高いところに建っています。とても寒く、笠原小学校が行ったときには雪は降りませんでしたが、それでも山の中には前の週に降った雪が残っている所もありました。そんな観音山で、所員の方とこんな話をしました。「校長先生は、『啓蟄』という言葉を知っていますか。」校長先生は、その言葉を知らなかったので、教えてもらいました。

「啓蟄」とは、日本の暦の一つで、「土の中で冬ごもりをしていた生き物たちが目覚める頃のこと。まだ寒い日はあるけど、段々と暖かい日が多くなってきた！春が近づいてきたような気がする、という頃」だということです。寒い冬を土の中でじっと我慢して過ごしてきた虫や動物たちが、少しずつ春の温かさを感じ、元気に動き出す様子を思い浮かべると、自分まで心が温まるような、いい言葉だと感じました。そしてこの笠原小も、誰かが心配なことや困ったことを抱えているときには、友達やおうちの人、先生方が、温かな春の日差しのように心をほぐしてくれる、そんな学校になればいいなと強く感じました。

皆さんも、それぞれ心配なことや困ったこと、悩みを持つことがあると思います。また、今、心配事や悩み事を抱えている人もいると思います。そのようなときは、ぜひ、誰かに相談してください。友達でも、おうちの人でも、もちろん先生にも。いつでも構いません。先生たちも、皆さんの心の元気を取り戻すために精一杯頑張ります。

今の学年も残り少なくなりました。6年は中学校へ向かって、1年生から5年生は一つ上の学年へ向かって、力一杯頑張っていきましょう。

